おいしい時間 定食 小六

昭和の香り漂う、味も量も満足の定食

創業61年を数える市内最古参の飲食店のひとつで、昭和の香りが漂う定食屋。

この道70年以上という店主の十河信也さん（89）が提供する料理は確かな舌と長年の経験に裏打ちされた味わいが感じられる。

十河さん

20数種あるメニューはトンカツやポークソテー、ハンバーグ、焼魚などの定食（みそ汁、ご飯付き）とまぐろ丼などの丼物が中心で、どれも若い人も満足させるボリュームだ。肉や魚は国内産で、野菜や調味料も吟味した新鮮な素材を使っている。

カウンターのみ12席ほどの店の壁には、映画撮影などの時に立ち寄って食事をした渥美清さんら俳優の色紙がずらりと貼られている。通常は十河さんがひとりで切り盛りしているが、平日の夜と週末は娘の麻由美さんが接客を手伝っている。十河さんは数年前に心臓病を患い、ペースメーカーを入れているが、高齢と思えない身のこなしでてきぱきと注文をこなす。ただ、店の前の松場通りの拡幅工事が本格化するため、10月末で店を閉めることを決めた。十河さんは「まだ続けたい気持ちはありますが、年齢を考えて新しい場所でやるのは難しいと決断しました」と話す。若い頃から長く通っている常連も多く、閉店を残念がるが、十河さんは「閉店まで精一杯頑張ります」と元気に話している。

☎3480-1864　岩戸北4-15-3　営業＝午前11時～午後1時30分/5時～7時30分、無休

MENU（税込）
❶とんかつ定食（上）¥1,500❷とんみそ焼定食¥1,200❸まぐろ丼(赤身)¥1,300❹ポークガーリック定食¥1,200、ハンバーグ定食¥1,200、チキンガーリック定食¥1,200、オムレツ定食¥1,000、ねぎとろ丼¥1,400、玉子焼¥200

優勝した狛江六小おやーず

多摩川いかだレース 狛江六小おやーず初優勝

「狛江古代カップ第33回多摩川いかだレース」(同実行委員会主催）が7月20日㈰に催された。

昨年より５チーム多い88チームの手作りいかだが12レースに分かれ、五本松付近から二ケ領宿河原堰付近まで約1.4kmを下り、スピードやデザインを競った。制限時間やいかだの損傷などで４チームがゴールできなかった。

ゴール地点では水鉄砲バトル、アユのつかみ取り、お楽しみラリー＆宝さがしなどが催された。

結果は、企画部門で東京土建豊島支部青年部チームが初の最優秀企画賞を獲得、タイムレース部門では狛江六小おやーずチームが10連覇を目指したハートフルおやじファミリー号に18秒の差を付け11分29秒で初優勝した。学生の部は狛江二中∞インフィニティ、レディース・ジュニアの部は狛江六小ファイターズAが優勝、市内の小・中学校の対抗レースは狛江六小ファイターズAが優勝した。

狛江六小おやーずの選手は「ハートフルの10連覇阻止に向け練習した。スタートがうまくいって逃げ切れたが、来年はまたチャレンジャーの気持ちでがんばりたい」と話していた。企画部門優勝の東京土建豊島支部青年部は「物作りの集団なので企画部門の優勝はうれしい」と喜んでいた。

最優秀企画賞の東京土建豊島支部青年部

狛江フェスティバル 6・7日に狛江駅周辺で

狛江の産業と文化の振興を目的に狛江の活性化を図る狛江フェスティバル2025（同実行委員会主催）が6日㈯・7日㈰の正午から午後８時までたかちゃんえきまえ広場と泉龍寺、エコルマ側道、泉の森通りなどで催される。

泉龍寺の「こまえ夏まつり」ではオール狛江おやじの会連合や大学生などによるこませんやご当地お土産くじ、綿あめなどの露店を設けるほか、中高生が企画したシロップカクテルなどドリンクBarの販売もある。舞台では両日合わせて29団体がキッズダンスや音楽などを披露する。

たかちゃんえきまえ広場ではKOMAE BEER FESTAとして市内のブルワリーや飲食店など24店舗が出店する。駅前ステージでは６日に和泉小学校の児童によるコーヒードリップバッグ販売や阿波踊り、狛江の未来大使企画などがある。側道のこどもひろばではこども商店、工作、積み木ができるコーナーなどを設ける。泉の森通りではスイーツやバー、雑貨などが出店する。

問い合わせ☎080-4132-2633繁平さん。

語り部が戦中・戦後回想 7日にコマラジで再放送

狛江ラジオ放送で8月15日㈮に狛江市民２人が戦争中の体験や学校の様子などを回想する番組が放送された。終戦から80年の節目を迎え「戦後80年 狛江市民平和の語り部事業」として狛江市が企画したもの。

パーソナリティー香月りささんの進行で、終戦当時小学校3年生だった髙木光さん（88)、石井久雄さん(89)が校舎の焼失や空襲、玉音放送、食糧難、戦後の狛江の様子などを約55分間にわたって話すとともに「2度とあんな生活はしたくない」と平和の大切さを訴えていた。

番組は9月7日㈰午前11時から再放送される。

新任教員が絵手紙研修 ひろがれ絵手紙の輪

自作の絵手紙を披露する新任教員たち

新任の教員を対象にした絵手紙研修が７月31日㈭に防災センターで行われた。狛江市では絵手紙を小学校の図工、中学校の美術などの授業に取り入れており、教員を対象にした研修は今回で４回目。

市内10校から23人の教員が参加、「絵手紙発祥の地－狛江」実行委員会の委員から絵手紙の基本的な知識や筆の持ち方、彩色の仕方など基礎について説明を受けた後、パプリカやナス、レモンなどを画材に真剣な表情で絵手紙をかいた。参加した教員たちは「思ったより難しかったけど、とても楽しかった」「ヘタでいい、ヘタがいいと聞いて安心して取り組めた」「子どもたちとも楽しんでかきたい」などと話していた。

社会を明るくする運動－優秀標語5点を表彰

松原市長と受賞者

第75回社会を明るくする運動の狛江市推進大会とコンサートが7月21日㈪エコルマホールで開かれた。

第一部では松原俊雄市長と須田啓文推進委員会会長の挨拶に続いて中学生を対象に募集した同運動の啓発標語の応募作品526点から選ばれた優秀作品が披露された。優秀作品は狛江第一中学校１年大宮梨央さん「まず相談　甘い言葉と　怖いワナ」、狛江第二中学校３年畝尾正哉さん「挨拶は　みんなで行う　防犯対策」、同中３年小泉芽生さん「ネット上　責任持とう　その言葉」、狛江第三中学校２年山口祥子さん「地域から　社会へ広がる　笑顔の輪」、狛江第四中学校１年森英美里さん「無関心　それが１番　怖い事」の５点。松原市長から畝尾さんらに賞状と記念品が渡された。

第２部のコンサートでは、中学校４校の吹奏楽部の生徒が見事な演奏を披露、客席の同級生や保護者らから拍手が送られていた。

スポット

はとの会が18日に在宅医療の公開講座

狛江電話訪問はとの会が18日㈭午前10時30分～正午にあいとぴあセンターで在宅医療をテーマにした公開講座を狛江市社会福祉協議会と共催で開く。

同会ではこれまで高齢者などに関わるテーマで公開講座を催している。今回は、東京慈恵会医科大学附属第三病院内科副医局長を務めた後、狛江市で最初に在宅クリニックを開業した「すまる在宅クリニック」の吉川哲矢院長が、在宅医療の現状や基本的な知識のほか、ケアに関わる人々を含め、人生の選択肢として在宅医療をどう考えるべきかなどについて話す。

吉川さん

対象は市内在住・在勤者で参加費は無料。定員50人（先着順）。申し込みは10日㈭までに電話で。

同会は平成２年から「電話訪問」と名付け、ボランティアの会員約20人が、65歳以上の日中ひとりになる高齢者や外出が難しい人などに毎週月・木曜日または火・金曜日の午後１時30分～４時に電話をかけて会話をすることで孤独感の解消や安否確認を行っている。現在、利用者を募集中。

申し込み・問い合わせは講座、電話訪問とも☎3488-0294狛江市社会福祉協議会　狛江電話訪問はとの会担当

誌面に掲載した記事・写真等の無断複製・転載等はお断りします。お問い合わせ・ご意見は狛江市政策室へ